

さけ・ます増殖管理推進事業調査（サケ関係）

（抄 録）

菊谷尚久

沿岸漁獲調査

1. 2000年漁期の沿岸回帰サケ親魚の旬別の沿岸漁獲量を集計した。
2. 2000年漁期の各海域での漁獲尾数は、太平洋1,239,263尾（前年比179.9%）、津軽海峡205,118尾（前年比101.0%）、陸奥湾内5,276尾（前年比134.6%）、日本海61,115尾（前年比130.9%）であった。来遊資源としては1984年以降の最低水準であった昨年をやや上回ったものの、依然として低水準であった。

沿岸環境調査（太平洋におけるサケ回帰親魚の環境調査）

1. 2000年9月から12月の期間中、試験船「開運丸」によるCTD観測を実施した。
2. 津軽暖流水の勢力は、津軽海峡東口では深さならびに東方への張り出しとも強くかなり強勢であったものの、暖流水の八戸沿岸への南下は岸よりで浅かったものと考えられた。
3. 親潮系水の沿岸への張り出しは、八戸沿岸において10月以降若干みられた。

移動分布調査

1. 2000年4月から5月にかけて、青森県日本海、津軽海峡沿岸及び陸奥湾口部において、サケ幼稚魚の分布、成長及び移動に関する調査を行った。
2. サケ幼稚魚は、小泊沖1,644尾、今別沖1,151尾、佐井沖140尾の合計2,935尾を採集した。鱒ヶ沢沖ではサケ稚魚は採集されなかった。
3. 各海域で採集されたサケ幼稚魚の平均尾叉長は、小泊沖56.2～64.3mm、今別沖62.0～87.9mm、佐井沖69.9～81.9mmの範囲にあった。
4. 標識放流は2000年3月13日に早期放流群150,000尾（FL60.1mm）、4月3日に適期放流群150,000尾（FL54.6mm）を赤石川サケ・マスふ化場より行った。標識魚の再捕状況は、小泊沖で適期放流群11尾が再捕されたのみであり早期放流群は再捕されなかった。
5. 日本海沿岸域におけるサケ稚魚の移動と体サイズとの関係が明らかとなった。

環境調査（日本海における放流稚魚の環境調査）

1. 2000年3月から5月にかけて、鱒ヶ沢町における毎日の表面水温及び塩分を測定した。また、沿岸5ヶ所（大戸瀬、赤石、小泊、今別、佐井）の地先に記録式MDS水温計を設置し、表層水温を連続して観測した。
2. 鱒ヶ沢における表面水温は、3月中旬及び4月中旬から5月上旬にかけて昨年来を0.5～1.5℃ほど下回って推移していた。平年差では3月及び5月で平年来を0.5～1.5℃ほど上回って推移していた。また、春季の塩分量の低下は昨年とほぼ同時期の4月中旬から5月中旬にかけてみられた。
3. 大戸瀬地先における日平均表層水温は、昨年と比較すると3月から4月上旬まではおおむね昨年来を0.5～1.0℃ほど上回って推移していた。4月中旬以降は昨年来を0.5～1.5℃ほど下回って推移していたものの、5月上旬以降急激な昇温と降温を繰り返していた。日平均水温が13℃を超えたのは5月8日であり、昨年より一週間ほど早かった。